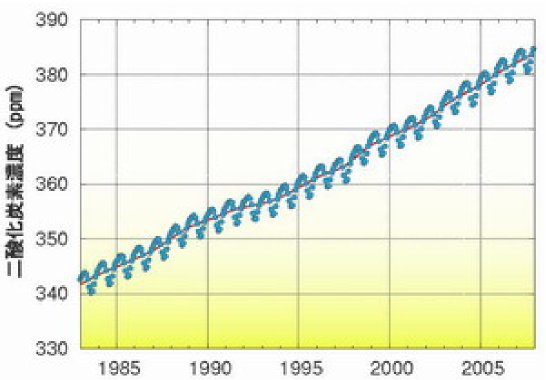
✧✧✧ 大気中の主要温室効果ガス濃度は過去最高値に
～「WMO温室効果ガス年報第４号の発行」～

世界気象機関（WMO）は、世界中で観測される温室効果ガスの濃度を毎年とりまとめて、「WMO温室効果ガス年報」として公表しています。気象庁は、WMOの温室効果ガス世界資料センター（World Data Centre for Greenhouse Gases: WDCGG）を運営し、世界中の観測データを収集・解析をしており、その結果に基づいて「WMO温室効果ガス年報」が作成されています。

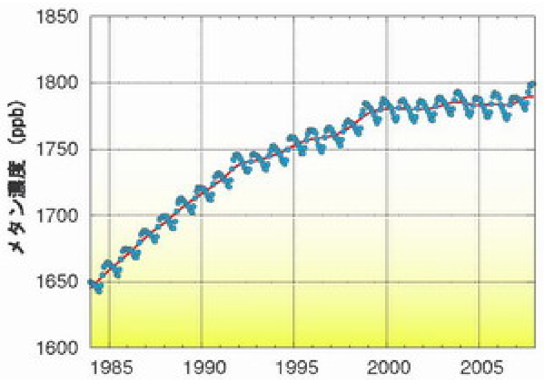
１１月２５日に発表された本年報の第４号によると、大気中の代表的な温室効果ガスである二酸化炭素（CO2）、メタン（CH4）及び一酸化二窒素（N2O）の世界平均濃度は、これまでの最高となったことが分かりました。なかでもメタンの濃度は、近年増加傾向が頭打ちになっていましたが、２００７年には１９９８年以来の高い増加量が見られ、濃度自体も２００３年に記録した過去の最高濃度を上回りました。また、二酸化炭素の濃度についても引き続き高い増加傾向が続いています。

	二酸化炭素 CO_2 (ppm)	メタン CH_4 (ppb)	一酸化二窒素 N_2O (ppb)
2007 年平均濃度	383.1	1789	320.9
前年との差	1.9	6	0.8
これまでの年平均濃度最高値（最高値を観測した年）	381.2（2006 年）	1785（2003 年）	320.1（2006 年）
最近 10 年間の平均年増加量	2.00	2.7	0.77
工業化以前の濃度との比（工業化以前の濃度）	137%（約 280）	256%（約 700）	119%（約 270）

注:ppm: 体積比で百万分の一、ppb: 体積比で十億分の一



二酸化炭素の世界平均濃度



メタンの世界平均濃度

（気象庁ホームページより）